



教科横断研究（地歴・公民）

10月7日（月）、16（水）、21（月）にAグループが「ディベート」に取り組みました。前回までの英語科の発表に続く、アウトプット型の演習形式の学習です。

1回目：ディベートとは何か。目的や特徴、ルールについて確認しました。

議題 ①日本は死刑制度を廃止すべきである ②日本は消費税を廃止すべきである

③新潟県知事は柏崎刈羽原子力発電所の再稼働を容認すべきである

班分け・・・各自で議題を1つ選び1班4～5人構成となるよう分かれる。

役割分担・・・班の中で班長、立論、尋問、反駁、最終弁論を1人ずつ割り振る。

※4人の班は、班長がどれかを兼ねる。

2回目：リサーチシートにもとづいて、インターネット等を使用し議題について各自で調べ、考えをまとめる。

3回目：議題に対して、肯定派と否定派、審判に分かれディベートを実施。

【生徒の感想スキルアップシートより】

- ・深く考えることにより、本質が見えてきた。自分の考えを変えることができたと思う。
- ・他の科と交流することは良い経験になり、論理的な文章を作成するよい機会になった。このことを活かしていきたい。
- ・作戦を立てて、意見に反論するのが大変だった。

教科横断研究（国語科）

11月11日（月）にAグループが「声の表現を学ぼう！スピーチコンテスト」に取り組みました。前回までの英語科、社会科の発表に続く、アウトプット型の演習形式の学習です。

早口言葉で滑舌練習を行った後、「技術者としての私の夢～SPHの取組を通じて～」というテーマで、1分間のスピーチを行いました。練習では、隣同士ペアになって、スピーチの様子をスマホで撮影し、振り返りに利用しました。



スピーチ練習。
スマホで、発表の様子を撮影し振り返りに利用。



【生徒の感想スキルアップシートより】

- ・声の強弱や、人の目を見て話す大切さが分かった。
- ・自分の普段の話し方を客観的に見て、話すときの言葉に注意しながら話すようにする。

【職員の感想】

夏休み明けから、英語、地歴・公民、国語と計8回、アウトプット型の演習形式の学習に取り組んだ。学科を横断した生徒の交流学習は、同じ課題や議題でも、視点が工業の専門科ごとに特徴があったように感じる。また、回を重ねるごとに発表の仕方も上達した。これらの取組が生徒の中で融合し、今後の様々な活動に還元されることが期待できる内容となった。